Rehabilitation support center of development and learning for children

Bambini KokuraMinami　Apprendo KokuraMinami　Bambini KokuraKita　Apprendo KokuraKita

NPO法人

リハビリ機能充実型児童デイ

子どもの発達・学習を支援するリハビリテーション研究所

〒800-0201　北九州市小倉南区上吉田6丁目15-6

児童発達支援事業所（4057703888）　ばんびーに　もじ
TEL093-980-6010　FAX093-980-6011

放課後等デイサービス事業所（4057703888）あぷれんど　もじ
TEL093-980-6012　FAX093-980-6011

〒800-0201　北九州市小倉南区上吉田6丁目15-3

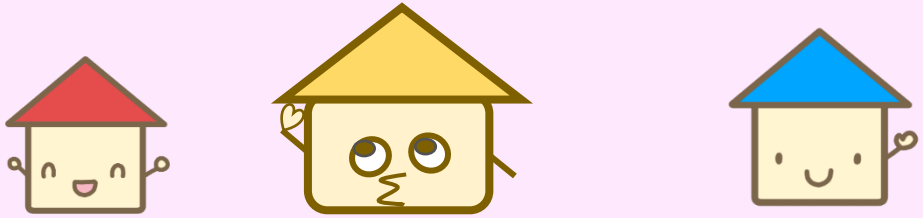
児童発達支援事業所（4057703888）　ばんびーに　よしだ
放課後等デイサービス事業所（4057703888）あぷれんど　よしだ

TEL093-981-1020　FAX093-981-1021

〒805-0050　北九州市八幡東区春の町4丁目1-4

児童発達支援事業所（4056600069）
ばんびーに　やはたひがし
TEL093-980-8810　FAX093-980-8811

放課後等デイサービス事業所（ 4056600069 ）
あぷれんど　やはたひがし
TEL093-980-8812　FAX093-980-8811



〒800-0206　北九州市小倉南区葛原東1丁目3-34-1

児童発達支援事業所（4057703367）
ばんびーに　こくらみなみ
TEL093-982-3010　FAX093-982-3011

放課後等デイサービス事業所（4057703367）
あぷれんど　こくらみなみ
TEL093-982-3012　FAX093-982-3011

〒803-0863　北九州市小倉北区南丘2丁目7-19

児童発達支援事業所（4057801823）
ばんびーに　こくらきた
TEL093-980-5010　FAX093-980-5011
放課後等デイサービス事業所（4057801823）
あぷれんど　こくらきた
TEL093-980-5012　FAX093-980-5011

法人理念

人間の子どもは、精神としての心（脳機能）、それを表現する身体が、それぞれバラバラに独立して発達していくわけではありません。当法人は、発達に問題を抱えた子どもやその心配がある子どもを「教育」・「保育」・「リハビリテーション」の観点から最大限支援することを目的に設立されました。

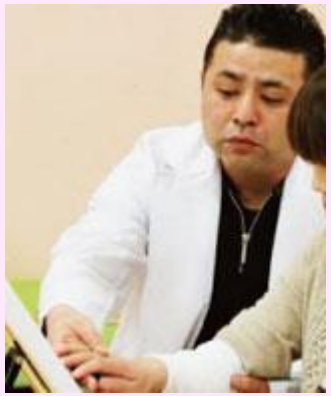
具体的な活動としましては、児童福祉法に基づく障害児通所支援事業として、未就学児童を対象とした児童発達支援事業所“ばんびーにこくらみなみ”を平成27年4月に、就学児童を対象とした放課後等デイサービス事業所“あぷれんどこくらみなみ”を平成28年1月に小倉南区葛原東に開設し運営しています。日常的にリハビリテーションを受けることができる施設は全国的にも少ないため、私たちの活動に対して地域の方々から大きな期待を頂いています。さらに多くの子どもたちがリハビリテーションサービスを享受できるように平成29年4月に児童発達支援と放課後等デイサービスの機能を備えた“ばんびーにこくらきた” “あぷれんどこくらきた”を小倉北区南丘に新規開設いたしました。当法人が運営するこれらの事業所の最大の特徴は、全国に先駆けて、発達障害児の発達や学習に精通したリハビリテーションセラピストを常勤配置していることです。子どもたちの発達や学習を支援するためには、リハビリテーションの理念に基づいた医学的知識や治療技術を備えた専門職の存在が不可欠です。個別リハビリテーションで子どもたち個々の能力を高め、その能力を集団療育で応用的活動として発揮する、個別療育と集団療育の両輪で子どもたちの発達を支えています。

NPO法人子どもの発達・学習を支援するリハビリテーション研究所が目指すものは、すべての子どもたちの社会参加を実現し、子どもたちとその家族がともに希望を持てる未来を創造していくことです。そのために、まだまだ不明な点が多く残されている発達障害の病態の分析や有効なリハビリテーション方法の確立を目指し、全国の医療機関や教育機関、福祉施設と連携し、教育・研究活動を積極的に行っていきます。

ちなみに「ばんびーに(bambini)」とは「子どもたち」を、「あぷれんど(apprendo) 」とは「自ら学習する」という意味をもつイタリア語です。

理事長からのメッセージ

理事長　高橋昭彦



日本認知神経リハビリテーション学会監事
高知医療学院客員教授
児童発達管理責任者
理学療法士

生まれたての赤ちゃんの脳の重さは約350gであり、成人の脳の重さ（約1300g）の1/3～1/4しかありません。出生後、この脳の重さは急激に増加していき、2歳から3歳にかけて1000gを超えます。このような急激な増加は新たな神経細胞が形成された結果、すなわち神経細胞の数が増えたためではありません。神経細胞は、成長とともに増えるどころかむしろ減っていきます。では何故、わずかな期間で急速に脳の重さは増加するのでしょうか。それは脳の中で神経細胞と神経細胞をつなぐネットワークが網の目状に張り巡らされていくからです。赤ちゃんの脳の神経細胞は出生当初、手あたり次第とも表現できそうなくらい様々な細胞間でランダムにネットワークを形成します。一旦形成されたネットワークは永続的なものではなく、使用頻度の高いネットワークは強化されて残り、逆に余り使われない経路は消えていく運命にあります。医学領域ではこのような神経細胞のネットワークの変化を剪定（せんてい）と呼びます。音を聞くと色が思い浮かぶなど、通常ではありえない能力を発揮する人がテレビなどで取り上げられることがありますが、これは共感覚と呼ばれる現象で、本来幼少期に断たれるはずの音と色に関わる神経細胞のネットワークが大人になっても残った結果だと考えられています。どのネットワークが強化され、どのネットワークが断たれるのか、その脳の変化こそが学習であり子どもの発達を決定づけます。発達や学習は、生得的に決められている部分もありますが、成長の過程で子ども自身が何を感じ、何を知覚し、何を思考したのか、つまり成長の過程でどのような体験や経験をしているのかといった環境と主体との関係性にも大きく影響を受けます。例えば、他者がバイバイをしているのを見た子どもが同じようにバイバイをするといった現象は模倣と呼ばれ、特に乳幼児期の子どもでは日常的に良くみられる現象です。模倣は学習が成立するための重要な要因ですが、近年の神経生理学では、“他者が行っている行為を自分が行っている行為として認識する”神経細胞であるミラーニューロンが発見され、人間の脳には生まれつき模倣を成立させるための基盤が存在することが明らかとなりました。しかし子どもは反射的に模倣するだけではありません。模倣の成立は、子どもにとっての欲求、観察内容、自分との関わりといった内面的な心理状態にも大きく左右されます。発達障害をもつ子どもは、何か特定のものに関心や興味が集中しやすいため他のものに興味が移りにくかったり、注意が散漫となって興味を示さなかったりしがちです。そのため発達や学習が適切に進まない場合が多くみられます。子どもの脳は可塑性（変化する可能性）が高く、適切な介入によって発達や学習を促すことができますが、そのような発達や学習を効果的に支援するためには、子どもの振る舞いや行動といった目に見える外面的側面だけではなく、心理状態や脳活動などの目に見えない内面的側面から子どもを注意深く観察し、いま子どもの中で起こっていることを理解しようと努める観察者の視点が鍵を握ります。私たちリハビリテーション専門家は障害をもった方に対して、有効な治療介入を行い回復を導くために患者さんの外面的側面のみならず内面的側面に対しても注意深く観察します。これまで医療分野で培ってきた専門家の知識や技術は、障害をもつ子どもたちの発達や学習の促進にも貢献することができます。

私は前職である高知医療学院に専任講師として赴任していた時期にイタリアに留学する機会を得ました。イタリアでは主に脳のリハビリテーションである「認知神経リハビリテーション」を学びました。帰国後は高知県立療育福祉センターなど小児リハビリテーション領域における臨床アドバイザーを務める傍ら、日本認知神経リハビリテーション学会の理事および事務局長として学術活動や教育活動を続けてきました。認知神経リハビリテーションは、注意・知覚・言語・記憶など脳機能に介入するリハビリテーションであり、成人の中枢神経系疾患、整形外科系疾患のみならず、自閉症や注意欠陥多動症、学習障害などの発達障害を含めた小児分野のリハビリテーション技法としても注目されています。

NPO法人子どもの発達・学習を支援するリハビリテーション研究所が運営する私たちの施設は、子どもたちにとって日常生活の場でありかつ療育の場でもあります。子どもたちが楽しく過ごせる施設であることを常に心がけ、質の高い療育サービスを提供することに職員一同努めています。

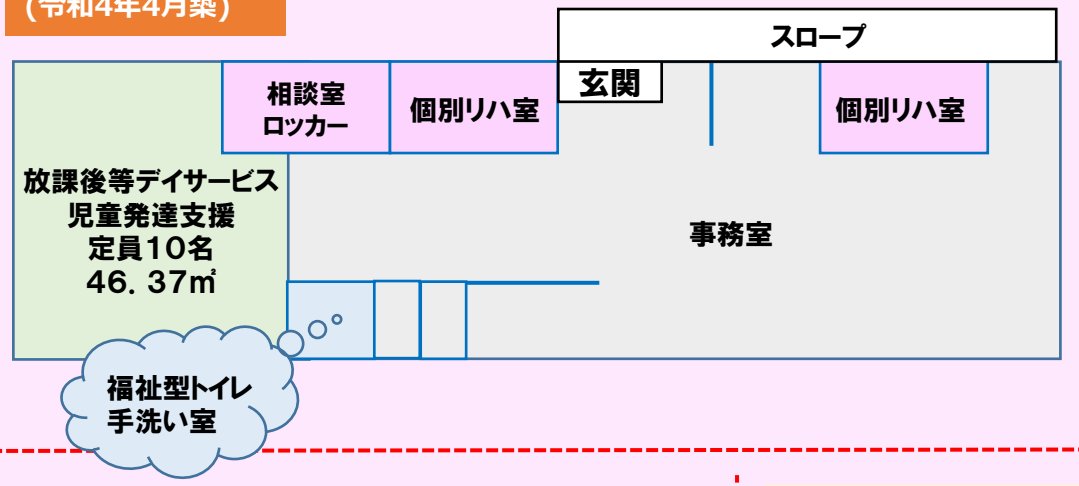
私たちの新たな挑戦が、障害をもつ子どもたちやその家族の方々の未来への希望につながることを願っています。

平成 3年 3月	九州リハビリテーション大学校卒業
平成 3年 4月	兵庫県立総合リハビリテーションセンター入職
平成12年 4月	日本認知神経リハビリテーション学会理事就任
平成13年 4月	神戸大学大学院医学系研究科入学
平成15年 3月	神戸大学大学院博士前期課程修了保健学修士
平成16年 3月	兵庫県立総合リハビリテーションセンター退職
平成16年 4月	高知医療学院入職 イタリア・ピサ認知神経リハビリテーション小児クリニック
平成17年 9月	イタリア・サントルソ認知神経リハビリテーションセンター留学
平成26年12月	NPO法人子どもの発達・学習を支援するリハビリテーション研究所設立
平成27年 2月	高知医療学院退職
平成27年 4月	指定児童発達支援事業所ぱんぴーにこくらみなみ開設

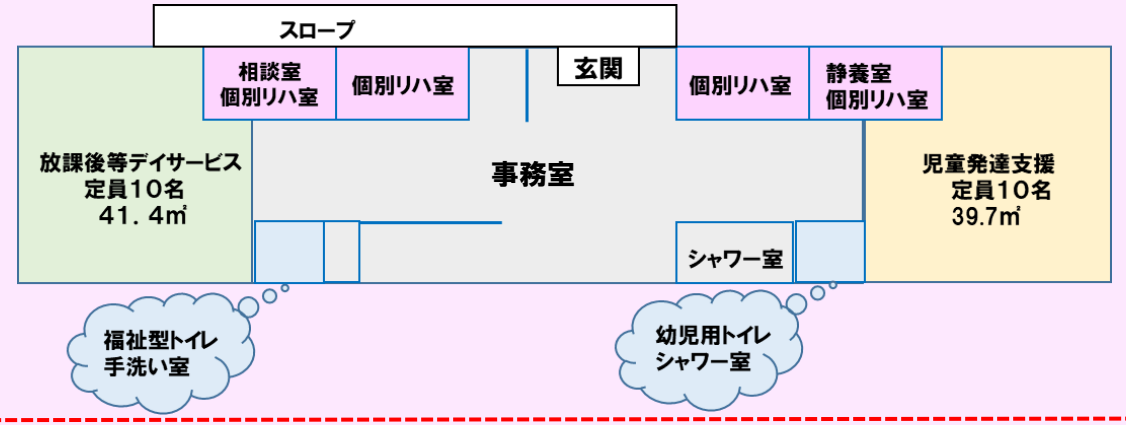
施設設備

＊全ての施設は児童デイ専用施設として建てられています。
施設基準は子ども一人当たり３㎡以上ですがすべての施設で十分な広さを備えてます

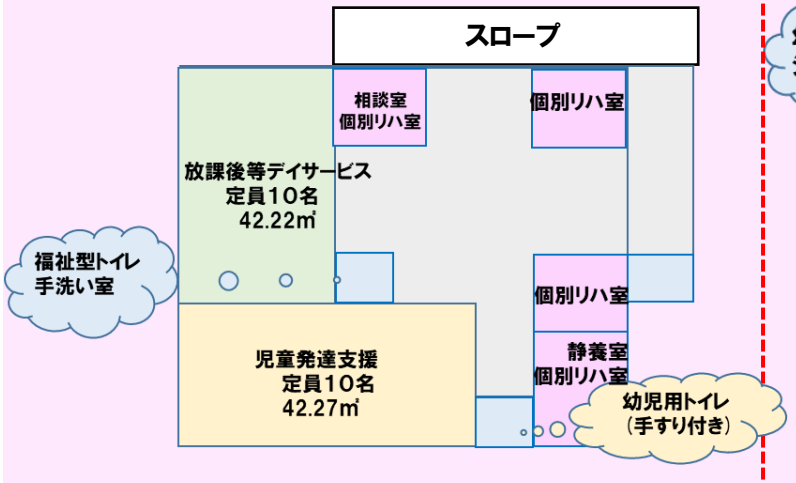
ばんびーによしだ あぷれんどよしだ (令和4年4月築)



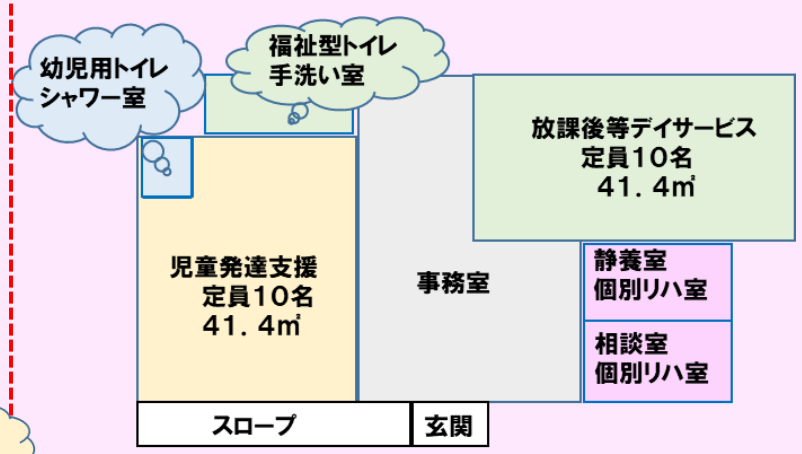
ばんびーにもじ あぷれんどもじ (平成31年4月築)



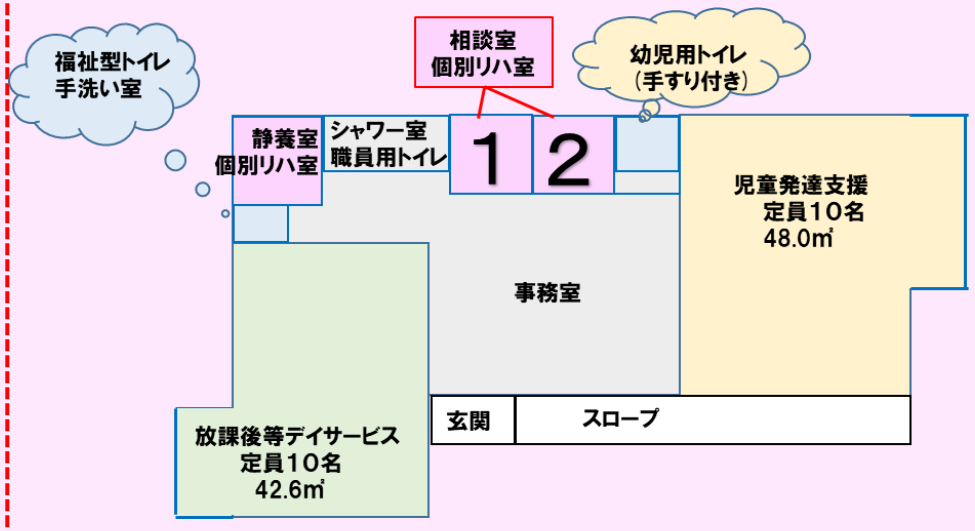
ばんびーにやはたひがし あぷれんどやはたひがし (令和2年12月築)



ばんびーにこくらみなみ あぷれんどこくらみなみ (平成27年4月築)



ばんびーにこくらきた あぷれんどこくらきた (平成29年4月築)



職員構成

	ばんびーに こくらみなみ	あぷれんど こくらみなみ	ばんびーに こくらきた	あぷれんど こくらきた	ばんびーに もじ	あぷれんど もじ	ばんびーに あぷれんど よしだ	ばんびーに やはたひがし	あぷれんど やはたひがし
児童発達支援 管理責任者	紙野愛嗣 (作業療法士)	藤原正也 (理学聴覚士)	高橋昭彦 (理学療法士)	田中美紀子 (作業療法士)	久光雄介 (作業療法士)	久光貴子 (作業療法士)	羽野貴哉 (理学療法士)	神河香織 (児童指導員)	中尾友美 (児童指導員)
機能訓練 担当職員	牧野愛加 (作業療法士)	後藤優佳 (理学療法士)	松下愛澄 (作業療法士)	田中雄大 (理学療法士)	田草純生 (作業療法士)	光廣日菜子 (作業療法士)	植野洋平 (理学療法士)	橋目豪 (理学療法士)	末吉健悟 (理学療法士)
サービス 提供職員	中武愛美 (保育士)	苅米美子 (児童指導員)	中村鮎美 (保育士)	園川　傑 (児童指導員)	高宮育世 (保育士)	音羽翔 (保育士)	白濱昭博 (保育士)	井手琴美 (児童指導員)	坂野　礼 (作業療法士)
	中野真見重 (保育士)	田中亜紀子 (児童指導員)	中山由紀 (保育士)	吉田佳世 (児童指導員)	牧野啓子 (児童指導員)	増見一崇 (児童指導員)	金井田一美 (児童指導員)	大江結花 (児童指導員)	藤崎凛太朗 (理学療法士)
	水上　晃 (保育士)	角田利架 (保育士)	宮薗佑香 (児童指導員)	高野保範 (理学療法士)	松田美佐子 (保育士)	北田寿子 (保育士)	吉里友希 (作業療法士)	安元優子 (保育士)	福田竜也 (児童指導員)
	音羽結衣 (保育士)	小笠原洋司 (児童指導員)	楠本美保 (保育士)	指　茂雄 (児童指導員)	高橋昭子 (保育士)	大石紀子 (児童指導員)	三ノ丸朋美 (児童指導員)	森涼我 (理学療法士)	梅本千鶴 (児童指導員)
	近藤恵子 (保育士)	村田めぐみ (言語聴覚士)		鵜原亜希子 (児童指導員)	阿部斉子 (保育士)		田中恵 (保育士)	畑由希 (言語聴覚士)	山口裕以 (理学療法士)
	政岡舞 (児童指導員)	濵田楓斗 (理学療法士)		田中将史 (言語聴覚士)			財前友果 (保育士)		
		秋田裕亮 (指導員)							

地図（事業所までのアクセス）

ばんびーにこくらみなみ・あぷれんどこくらみなみ
小倉南区葛原東1丁目3－34－1(093-982-3010)
＊場所が不明な場合はお気軽にご連絡ください。
施設近隣での待ち合わせにも対応いたします。

ばんびーにこくらみなみ
あぷれんどこくらみなみ

ばんびーにこくらきた・あぷれんどこくらきた
小倉北区南丘2丁目７－１９(093-980-5010)
*場所が不明な場合はお気軽にご連絡ください。
施設近隣での待ち合わせにも対応します。

ばんびーにこくらきた
あぷれんどこくらきた

あぷれんどもじ・ばんびーにもじ
小倉南区上吉田6丁目15-6　(093-980-6010)
*場所が不明な場合はお気軽にご連絡ください。
施設近隣での待ち合わせにも対応します。

あぷれんどよしだ・ばんびーによしだ
小倉南区上吉田6丁目15-3　(093-981-1020)
*場所が不明な場合はお気軽にご連絡ください。
施設近隣での待ち合わせにも対応します。

あぷれんどもじ
ばんびーにもじ
あぷれんどよしだ
ばんびーによしだ

あぷれんどやはたひがし・ばんびーにやはたひがし
八幡東区春の町4丁目1-4　(093-980-8810)
*場所が不明な場合はお気軽にご連絡ください。
施設近隣での待ち合わせにも対応します。

ばんびーにやはたひがし
あぷれんどやはたひがし

職員募集

サービス提供職員（保育士・社会福祉士・介護福祉士・教員）
リハビリテーションセラピスト（PT・OT・ST)

上記職員を募集しています。条件はただ一つ「どんな時であっても子どものことを第一に考えて行動できる人」です。

当法人で療育を行っている子どもたちは様々な障害とたたかっています。彼らはみな素直で愛される存在です。

彼らの未来に少しでも役に立つことができるのであれば、こんなに素晴らしい仕事はありません。

利用する「すべての子どもたちに個別リハビリを提供する」という全国的にも新しい試みにチャレンジしている事業所であるため、誰の足跡もない砂漠の上に足跡を残していく大変さもありますが、未知の世界に挑戦することの喜びや楽しみもあります。私たちの想いに共感し一緒に働いていただける人を求めています。

詳細は法人事務局（093-980-5010）までお問い合わせください。

個別療育（子どもの能力に応じた課題を提供します）

身体に注意を向ける課題

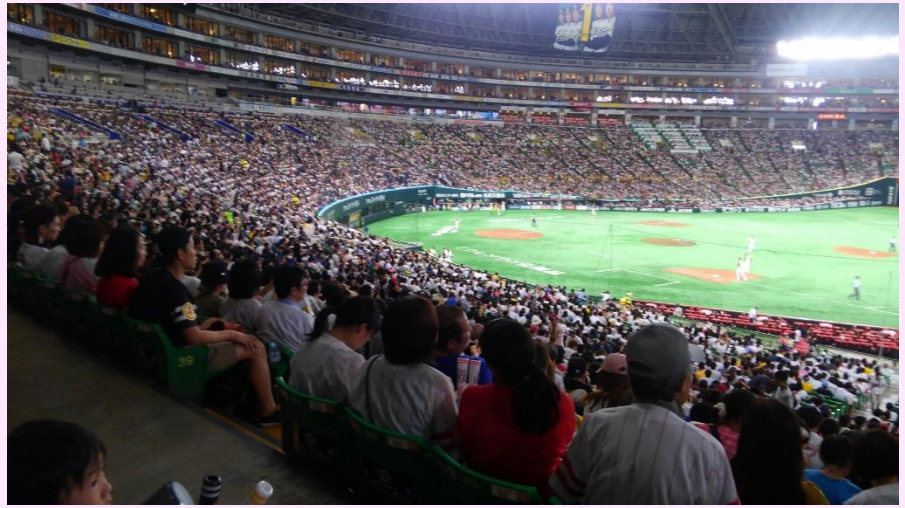
＊自身の身体感覚（体性感覚）情報へ注意を促します

言語理解を促す課題

視覚的なイメージの想起を促す課題

事業所でのイベント

福岡ソフトバンクホークス試合観戦（ヤフオクドーム）



ソフトバンクホークス様にご招待いただき日本ハム戦を観戦しました。

夏のお祭り

プール活動

お友達の送別会